

地質系博物館の紹介 — 韓国天然記念物センター —

田中 剛¹⁾・ユンリーナ²⁾

地質は、自然界を構成する基本要素の一つとして、様々な分野での展示に取り入れられる。ここ韓国テジョンにある天然記念物センターでも、自然遺産としての恐竜の卵や足跡などの化石、ツキノワグマやカワウソなど動物の剥製、古来より存道里の人びとに崇められてきた巨木である存道里松の株、などの希少標本をとおして、青少年の学習に役立つ展示紹介がなされている。来館者は、保護者と一緒の小学生や友人同士の中学生など若年層が多い。本稿では、地質を中心としてそれらの展示を紹介する。



写真1 センターの玄関に置かれているのは、40トンもある韓国北部江原道旌善郡からのジュラ紀礫岩。全体が河川礫として産出したもので、表面が自然に磨かれている。



写真2 韓国には天然記念物として恐竜の足跡の化石産地が10箇所ほども指定されているが、卵の化石の産地も多い。これは京畿道華城市古井里からの恐竜の卵。



写真3 恐竜は、子供だけでなく大人も夢中にさせる。恐竜の卵修復ゲーム（ジグソーパズル）に夢中になる親子。

1) 韓国地質資源研究院, 名古屋大学年代測定総合研究センター
2) 天然記念物センター (韓国)

TANAKA Tsuyoshi and YOON Rina (2015) Introduction to Natural Heritage Center, Korea.



写真4 韓国南部慶尚南道晋州市の白亜紀漣痕，1辺が2mほどの標本で，屋外に展示されている。



写真5 韓国済州島東部にある牛島の紅藻類ノジュール。紅藻類は、生きている時は紅色を持つが、死ぬと脱色し白くなる。牛島の海岸は、一面白い砂で埋められている。



写真6 地質コーナーでの児童説明員の活躍。センターでは時々小学校高学年から中学校の生徒が説明員を務める。説明員は、あらかじめ職員から内容を十二分に習っているのので、質問にも答えられる。たくさんの友人親戚が参観に来るだけでなく、終了後は、センター長からの認定書が学校長に送られる。



写真7 天然記念物センター隣のハンバツ樹木園の一角には、ロックガーデンがある。公園で一番高い丘には、登山遊歩道に沿って様々な岩石が配置されており、岩石と四季の植物を楽しみながら散策できる。